

表2 性別と死について考えた経験の有無

	死について考える	死について考えない	合計
男性	126	54	180
女性	129	19	148
合計	255	73	328

③“死について考えるのはどのような時か”という問いに対して、家族や親しい人の死亡のとき169名、自分や家族が病気の時110名、新聞やテレビのニュースをみたとき66名、地震など自然災害時65名、であった(複数回答、図2-②)。

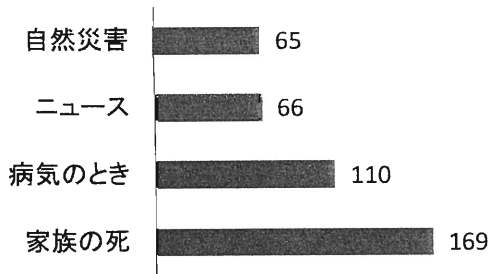


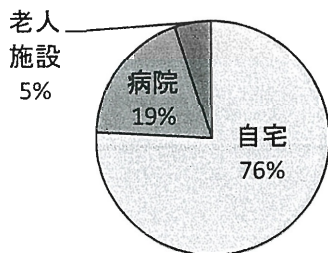
図2-② 死について考えるのはどのような時か

4) 自身の最期に対する希望について

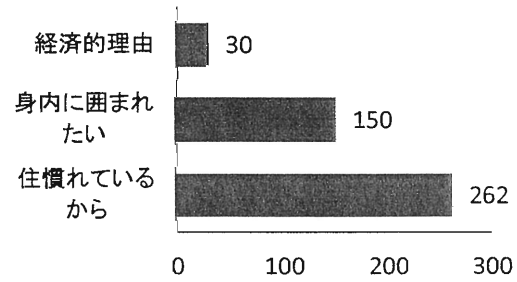
死に対する考えを踏まえ、自分の最期に対する希望や要望をたずねた。

①“自分の最期をどこで迎えたいか”という問いに対して、自宅347名、病院87名、老人施設23名であった(図3-①)。

図3-① 最期を迎えたい場所

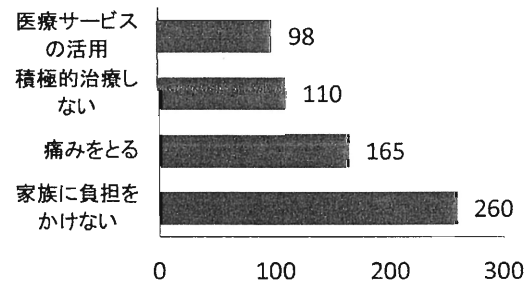


②“自宅で最期を迎えたいと考えている理由”は、住み慣れたところで死にたい262名、身内に囲まれて死にたい150名、経済的な理由30名であった(複数回答、図3-②)。



■ 図3-② 自宅で最期を迎えたい理由

③“自宅で最期を迎える条件”としては、家族に負担をかけたくない260名、痛みは取ってほしい165名、積極的な治療はして欲しくない110名、往診・訪問看護・介護サービスを受けたい98名であった(複数回答、図3-③)。



■ 図3-③ 自宅での最期に望むこと

④“最後まで自分でしたいこと”の上位として、自分でトイレに行く333名、自分で食べる255名が挙げられた(複数回答可)。

5) 最期に希望する医療処置について

病状の改善が見込まれないと診断された場合、どのような手当や処置を希望するかについてたずねた。

①病状の改善が見込まれない場合の話をしたことがあるか(n=414)。ある151名(36.4%)、ない199名(48.0%)、考えたことがない64名(15.4%)であった(図4-①)。

図4-① 回復の見込みがない場合の話をしたこと

